

## 基準 5 . 教育内容及び方法

## ( 1 ) 観点ごとの自己評価

## ( 準学士課程 )

観点 5 - 1 - 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

## ( 観点にかかる状況 )

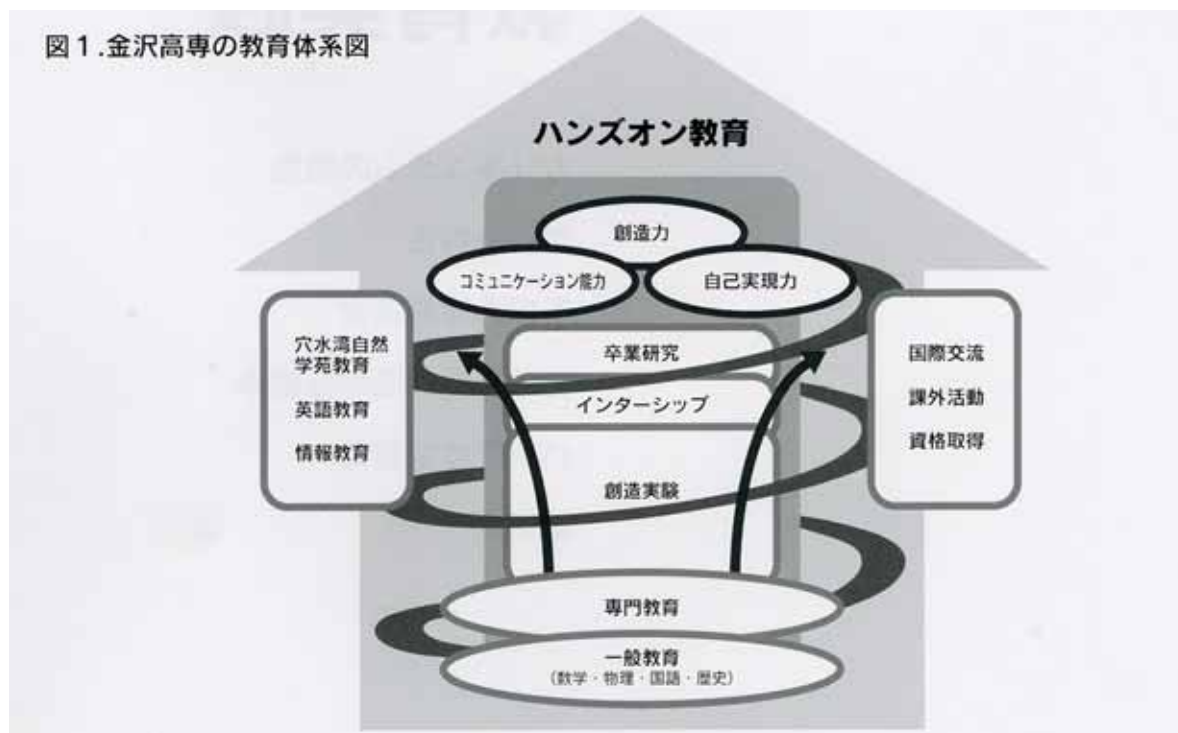
- ・ 本校は、「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」を教育実践目標として、金沢工大学園の施設や組織、また関係教職員との有機的な連携のもとに、教育研究活動の充実発展を期しております。
- ・ 本校の教育体系は、(資料 5 - 1 - - 1 「金沢高専の教育体系図」)の通り、縦軸（時間）と横軸（学園との連携）のスパイラル構造で教育を実践しています。縦軸の教育とは、「創造実験」を支柱とした一般教育から専門教育の連結を強化し『創造性』を醸成する仕組みであり、横軸の教育とは、他者との「コミュニケーション能力」や「自己実現力」を学年ごとに高め『人間力』を醸成する仕組みです。また、具体的なカリキュラムの全体像は、(資料 5 - 1 - - 2 「金沢高専のカリキュラム全体像」)のとおり、創造実験をハンズオン教育の支柱として、一般教育と専門教育が強固に連結する教育として編成することで、本校の教育実践目標を達成しようとするものです。(資料 5 - 1 - - 3 )
- ・ 一般教科や各学科の授業内容は、校長との面談や学科長、教科主任との協議を通して、各科目担当者間で情報共有されています。また、各科目担当者は、本校の教育実践目標の趣旨に沿って授業計画を作成し授業が行われています。
- ・ 本校の教育実践目標等を学生と共有するために、「学生便覧」が作成されています。
- ・ 本校の教育実践目標を達成するために、各学科の課程編成が行われており、各授業の内容が整備されていると認識しています。(資料 5 - 1 - - 4 )(資料 5 - 1 - - 5 )(資料 5 - 1 - - 6 )

(資料5 - 1 - - 1)  
「金沢高専の教育体系図」

(1) カリキュラムの基本設計

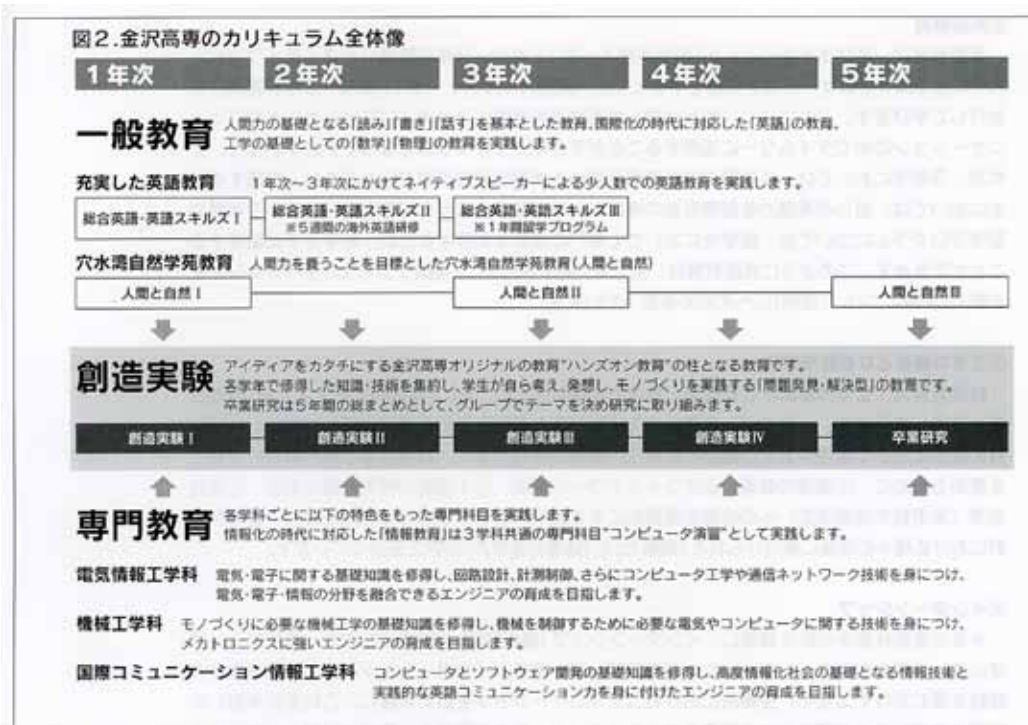
本校の教育体系は、図1に示す通り、縦軸(時間)と横軸(学園との連携)のスパイラル構造で教育を実践しています。縦軸の教育とは、「創造実験」を主柱とした一般教育から専門教育の連結を高め『創造性』を醸成する仕組みであり、横軸の教育とは、他者との「コミュニケーション能力」や「自己実現力」を学年ごとに高め『人間力』を醸成する仕組みです。

図1.金沢高専の教育体系図



(出典 「学生便覧 2005」P.10 抜粋)

(資料5 - 1 - - 2)  
「金沢高専のカリキュラム全体像」



また、具体的なカリキュラムの全体像は、図に示す「金沢高専のカリキュラム全体像」のとおり、創造実験をハンズオン教育の主柱として、一般教育と専門教育を「楔形の教育」として編成することで、本校の教育実践目標を達成しようとするものです。

一般教育においては、人間力の基礎である「読み」「書き」「話す」を基本とする教育に力を置き、さらには21世紀が国際化の時代であるとの認識から「英語」の教育に力を注いでいます。また、エンジニアの基盤として、工学の基礎である「数学」と「物理」の基礎力の充実を目指しています。さらに、「人間形成」を教育の根本理念とする本校は、「穴水湾自然学苑教育」を人間教育の軸となる科目として必須化し、各教育と共に海洋活動やグループ活動など、寝食を共にする合宿教育において「人間力の涵養と醸成」に努めています。

専門教育においては、創造実験を5年間一貫教育の柱とする体系を構築しています。各分野における専門科目の知識がなぜ必要なのか。また、どのように活かすことができるのかを自ら考えることが重要であると考えます。各創造実験では、「体験するモノづくり」をテーマとして、学生自らの気付きを促し、学習意欲の増進に繋げるべく取組を進めています。そのため、各専門科目の配置も可能なかぎり創造実験との関連を重視した配置とすることで、各学科の「専門基礎知識の定着」と「創造性の醸成」を目指しています。また、各学科の専門分野については、産業界のニーズを捉え、学生に求められる基礎的能力や知識が学べるように努めています。

創造実験は、5年間学び続けるハンズオン教育の柱の科目であり、知識・技術の修得はもちろん、学生が自ら考え、発想し「モノづくり」を体験することで問題提起・解決型のエンジニアの育成を目指しています。1年次は学科共通で、2年次から徐々に学科の専門教育と関連させながら知識の統合化を図ります。5年次は、高等教育の集大成を図るべく卒業研究として、「能力の総合化」を実践しています。

(出典 「学生便覧 2005」PP.10～11 抜粋)

(資料5 - 1 - - 3)

## (2) 教育実践の特色

### 1. 穴水湾自然学苑教育

穴水湾自然学苑において開講される「人間と自然 ～ (1年次、3年次、5年次開講)」は、本校の教育実践目標を達成する上で最も重要となる人間形成を具現化する科目として位置づけられています。この科目は、豊かな自然環境の下、学生と教員が寝食を共にし、思いやる心を育み倫理観を養うこと、チームワークの大切さを知りリーダーシップを発揮できること、日本人としての自覚を深めることを教育目標としています。この実現に向けて、海洋活動、グループ討議、校長講話、科長講話、歴史講話、奉仕活動、クラスミーティング、穴水湾自然学苑での生活、等の活動を2泊3日(1年次)または3泊4日(3、5年次)の研修スケジュールの中で実践し、学生同士、教員と学生との間で、充実した人間的ふれあいを実現し「人間力」を身につけていきます。

### 2. 英語教育

英語教育は、英文法を中心とした「総合英語 ～ (1年次～3年次開講)」とネイティブスピーカーによるコミュニケーション英語を中心とした「英語スキルズ ～ (1年次～3年次開講)」を並行して学びます。これにより、学生は学んだ英文法を実際にネイティブスピーカーとのコミュニケーションの中でタイムリーに活用することができるカリキュラムとなっています。また、2年次、3年次においては、5週間の海外英語研修や1年間の留学プログラムがあり、希望する学生においては、自らの英語力を国際社会の場において実践することも可能となります。1年間の留学プログラムについては、留学先においても専門の授業を受講するため、休学せずに留学することができます。このように英語教育は、英文法だけではなく、「英語でコミュニケーションできる能力」を身につけ、「国際化」への対応を図っています。

### 3. 工学の基礎となる数理教育

数理教育は、工学の基礎となる数学と物理の理解を深めるために「論理的に考えさせる」数理教育を実践しています。一般的に、高専教育の特徴である低学年からの専門科目の学習は、数理科目の授業において定理や公式の暗記と計算法の修得に陥りやすく、数理教育と専門教育の接続性を高めるために、復習の徹底、オフィスアワーの実施、1週間の特別補習の実施、資格取得(実用数学技能検定)への挑戦を積極的にすすめています。これらの取組により、各専門分野における種々の理論に裏付けられた「洞察力」と「論理的思考力」の向上を図っています。

### 4. インターンシップ

4年次夏期休業中の約2週間に、インターンシップ(選択科目)が実施されます。本校では、開学以来、全学生がこのインターンシップを受講しています。インターンシップは、単に企業での経験を積むだけではなく、企業内におけるコミュニケーションを肌で体験し、これまで学習した知識や技術を社会の場において活用することによって、学生自身がこれまでの学習を自己点検すると共に、残りの学生生活において、何を目標に学習するのかを「自ら考える」ことを大切にしており、新たな学習計画を立てる上で重要な位置づけとなっています。特に、5年次の「卒業研究」の準備教育として、インターンシップ終了後には、本校で報告会を行い、学生諸君の更なる「自己啓発」の動機付けとなっています。

### 5. 卒業研究

卒業研究は、学生がこれまで身に付けてきた力を発揮する集大成の科目となっています。卒業研究で学生が取り組むテーマは、実際のモノづくりに力点を置いたものが多く、企業において実際に取り組むレベルのテーマも含まれます。学生は、これらのテーマに取り組むことにより、これまで学んだ知識・技術・経験を活かして、モノやシステムの製作・開発を行います。また、これら一連のプロセスを、最終的に研究論文としてまとめ、第三者にプレゼンテーションします。このように、卒業研究では、モノづくりやシステム開発を意識して取り組むことによって、企業が必要とする「実践的な力」を身につけることができると共に、進学においては高い意識をもって、さらに深く専門分野を「学ぶ姿勢」が身につきます。

(出典 「学生便覧 2005」PP.11～12 抜粋)

(資料 5 - 1 - - 4)

( 1 ) 電気情報工学科

学習・教育目標

本学科では、電気・電子に関する基礎知識を習得し、回路設計、計測制御、さらにコンピュータ工学や通信ネットワーク技術を身につけ、電気・電子・情報の分野を融合できるエンジニアの育成を目指します。



本学科では、電気回路 ~ 、電気磁気学 ~ (いずれも 2 年次 ~ 3 年次にかけて開講)において電気と磁気の関係を理解した上で、電気回路設計における必要な知識を身につけます。これらの知識では、創造実験での演習において重要な知識となり、学生は、専門教育で学んだ知識を創造実験で活用することが求められます。また、4 年次 ~ 5 年次にかけては、半導体工学の基礎を学びダイオード、トランジスタ等の仕組みを理解すると共に、電子回路 ~ (4 年次 ~ 5 年次にかけて開講)にて電子回路設計に必要な知識を身につけていきます。これらの科目で身につけた知識も、創造実験において重要となります。このように本学科の専門科目は、創造実験と密接な関係にあり、学生は、これまでの学習で得た知識をモノづくりの場において活用するというスタイルを身につけることができます。その他、4 年次から 5 年次にかけて、情報工学に関する専門分野、電気工学と関連のある材料工学、制御工学などの専門分野をさらに掘り下げて学習していきます。

創造実験

創造実験 ~ (1 年次 ~ 4 年次にかけて開講)は、まず、電気・電子におけるさまざまな現象を計測することで、その現象の概略を理解すると共に、各種機器、計測機器の取扱いを身につけます。また、計測した値を活用し、これらを制御する技術を身につけることで、電気・電子・情報の融合のコア技術となる制御技術を身につけていきます。創造実験の中で取り扱うテーマは、

単純なもの（電気・電子の回路）から、複雑なもの（パワーエレクトロニクス、ネットワークを介した制御技術等）へとステップアップします。複雑なテーマになるにつれ学生は、これまで専門科目において身につけた回路設計技術やプログラミング技術などをはじめ、創造実験の中で身につけた計測・制御の技術を総合的に活用することが求められます。

このように、本学科の創造実験は、ハード（回路設計技術）、ソフト（制御システム）の両面から、身につけた技術を応用し、電気システムの設計プロセスを、段階を経て学習することで、電気系エンジニアに必要な創造力を養うことができます。さらに、学生に応じて、これら一連のプロセスを数名の学生によるチームを編成し取り組むことで、リーダーシップやチームワークを肌で体験し修得することができます。さらに、取り組んだ内容をレポートとしてまとめあげる力や、教員に対してプレゼンテーションを行うことで、第三者に対して情報を魅力的に伝えるコミュニケーション能力を身につけることができます。

#### 情報教育の特色

本学科の情報教育は、エンジニアとして必要な情報リテラシーの修得をベースに、制御に必要なプログラミング技術の修得に重点を置いています。創造実験においても重要な要素となる、プログラミング技術は、コンピュータ演習 ～ （1年次～4年次にかけて開講）を通して習得します。この科目では、まずVB（Visual Basic）を用いて、プログラムの流れを視覚的に作成することで、制御プログラムを作成する上で重要となるアルゴリズムへの理解を深めていきます。さらに、アセンブラ言語やC言語を中心として、制御に必要なプログラミング技術の基礎を修得します。

#### 情報取得教育の特色

本学科では、学生に対する学習意欲の向上、また課外における学習の動機付けを行う取り組みとして、資格取得を推奨しています。この資格取得チャレンジへの足がかりとなる科目が工学演習 ～ （3年次～4年次にかけて開講）です。この科目は、電気工学に関する基礎的な内容を、第三種電気主任技術者試験で用いられる演習問題等を用いて学習します。また、情報システム（2年次に開講）においては、情報技術検定2級や基本情報技術者試験のハードウェア関連における内容を学習します。このように、本学科では、授業の中においても、電気・電子、情報、の技術を融合できるエンジニアとして、それぞれの側面から資格取得が実社会において評価されることを意識付け、学生の学習への積極的なサポートをしています。

（出典 「学生便覧 2005」 PP.13～14 抜粋）

(資料 5 - 1 - - 5)

(2) 機械工学科

学習・教育目標

本学科では、モノづくりに必要な機械工学の基礎知識を習得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身につけ、メカトロニクスに強いエンジニアの養成を目指します。



本学科では、メカトロニクスのベースとなる、電気、機械、情報の各専門分野の科目によって構成されます。電気の分野においては、電気基礎(2年次開講)で、直流回路、電気と磁気、交流回路といった基本的な電気現象を理解します。機械の分野においては、機械システム基礎、機械システム応用(1年次~2年次にかけて開講)において、機械材料、力学といった側面から機械工学の基礎を修得します。また、機械製図 ~ (1年次~2年次にかけて開講)において、機械製図に関する規格を理解して、図面を正しく読み、設計できる能力を身につけ、機械設計製図の基礎的な技術を修得します。機械設計演習(4年次に開講)では、機械を設計し、図面を製作する際の具体的なプロセスを修得します。情報の分野においては先に述べたとおりです。このように、これらの専門科目によって、身につけられた知識・技術は、創造実験における演習において重要な知識・技術となり、学生は、専門科目で学んだ知識を創造実験において活用することが求められます。その他、4年次から5年次にかけて、機械工学に関する専門の分野をさらに掘り下げて学習していきます。

創造実験

創造実験 ~ (1年次~4年次にかけて開講)は、まず、物理や電気の分野における現象をテーマとした実験を通じて、その仕組みを理解すると共に、モノづくりのベースとなる加工技術の修得を行います。これらを踏まえて、機械技術(構造系の設計・製作)、電気・電子技術(回路機構

の設計・製作)、情報技術(制御系の設計・製作)といった、メカトロニクスのベースとなる基礎技術を修得します。この技術の修得において、学生は、専門科目で身につけた、回路設計技術やプログラミング技術、さらには、機械工学の基礎知識を用いながら学ぶことが求められます。これらのプロセスを経て、これまで身につけてきた技術を総合的に活用するテーマとして、学生はロボットの製作を行います。ロボットの製作にあたっては、学生の自由な発想が盛り込めるように課題を設計し(校内案内ロボットの製作等)これまで身につけてきた技術の総合化と想像力を養う工夫が盛り込まれています。また、ロボットを製作する過程において、必要性、システム要求、システム設計・製図、模型の制作、加工、制御実験、プレゼンテーション、報告書の作成といった、一連の流れを網羅することで、企業においても実践されているモノづくりの基礎的な流れを身につけることができます。ロボットの製作にあたっては、数名の学生によるチームを編成し取り組むことで、リーダーシップやチームワークを肌で体験し修得することができます。さらに、取り組んだ内容をレポートとしてまとめあげる力や、教員に対してプレゼンテーションを行うことで、第三者に対して情報を魅力的に伝えるコミュニケーション能力を身につけることができます。

#### 情報教育の特色

本学科の情報教育は、エンジニアとして必要な情報リテラシーの修得と共に、制御に必要なプログラミング技術の修得に重点を置いています。具体的には、情報処理(1年次)、コンピュータ演習(2年次)を通してC言語を用いたプログラム作成方法の基礎を修得します。また、創造実験においても重要な要素となる制御においては、マイコン制御(3年次開講)によって、アセンブラ基礎を中心としたプログラミング技術を修得します。

#### 資格取得教育の特色

本学科では、学生に対する学習意欲の向上、また課外における学習の動機付けを行う取り組みとして、資格取得を推奨しています。具体的には、3級機械設計技術者の資格試験を推奨しており、機械システム基礎、機械システム応用、機械製図、工業力学、材料力学、機械設計演習などの機械関連の専門科目を通して学習することで、資格取得に必要な知識を得ることができます。このように、本学科では、授業の中においても、機械システム系のエンジニアとして、資格取得が実社会において評価されることを意識付け、学生の学習における積極的な行動をサポートしています。

(出典 「学生便覧 2005」PP.15~16 抜粋)



(資料 5 - 1 - - 6 )

( 3 ) 国際コミュニケーション情報工学科

学習・教育目標

本学科では、コンピュータとソフトウェア開発の基礎知識を修得し、高度情報化社会の基盤となる情報技術と実践的な英語コミュニケーション力を身につけたエンジニアの育成を目指します。



情報教育の特色

本学科の情報教育は、ソフトウェア開発に必要なプログラミング技術の修得に重点を置いています。コンピュータ演習 から では、C言語を中心にアルゴリズムの理解とプログラミングの基礎を修得し、簡単な処理を行うプログラムの作成から段階を経て高度な処理を行うプログラムを作成する力まで身につけます。情報工学演習 、 ( 4年次～5年次にかけて開講 ) では、それまでに学習してきたプログラミング技術や情報技術の基礎を踏まえて、具体的にソフトウェア開発の流れに沿った演習を少人数のグループ単位に分かれて行います。この科目の演習の中には、基本的なプログラミングはもとより、ネットワーク、データベースといった要素を盛り込んだソフトウェア開発を体験します。その上で、ソフトウェア工学(5年次)において、ソフトウェア開発の知識・技術の総合的なまとめを行います。4年次から5年次にかけては並行して、マルチメディア、通信ネットワーク、データベースなどの科目が開講されます。これらの科目は学生にとって、システム開発の具体的な流れを身につけるだけでなく、より深い情報技術に関する知識を意欲的に学習するための重要な位置付けにあります。

英語教育の特色

また、本校では、2年次・3年次において5週間の海外英語研修や1年間の留学プログラムがあり、希望する学生は、自らの英語力を国際社会の場において実践することができます。1年間

の留学プログラムでは、留学先において専門の授業を受講するため、休学する必要がありません。なお、留学を希望しない学生に対しては、3年次に英語総合技術 において海外留学先に準じた授業がなされます。また、4年次以降開講される、英語発表技法、ビジネス英語では、英語におけるコミュニケーションの場を日常生活から、ビジネス社会の場へとステップアップさせ、国際社会で通用する英語によるプレゼンテーション技能やビジネス社会における英語の活用について学習します。このように本学科の英語教育は、日常における英会話だけでなく、ビジネスにおいてもコミュニケーションを図るレベルを身につけることができる教育を実践しています。

#### 創造実験

創造実験 ～ (1年次～4年次にかけて開講)では、低学年(1～2年)においてはモノづくりを通して工学の楽しさを体験し、上級学年(3～4年)では楽しさを引き継ぎつつ、創造力を育成していきます。低学年でのテーマには、簡単なアニメーションの作成、パーソナルコンピュータの組み立て等があり、学生がこれを楽しむと同時に、完成体験を通じて自己の力に自信をつけることも目的としています。上級学年では、制御プログラム作成をテーマとして、基礎となる個々の単純な要素について学び、その要素を組み合わせることによってより複雑な機能を発揮するプログラムを作成するプロセスを体験します。これにより、基礎から積み上げて創り上げていく堅実な創造性を養います。一方、コンテンツ作成のテーマを通じて、自由な発想に基づく創造を体験し、自由な発想による創造性を引き出します。

#### 資格取得教育の特色

本学科では、学生に対する学習意欲の向上、課外における学習の動機付けを行う取組として、資格取得を推奨しています。この資格取得チャレンジへの足がかりとなる科目が情報処理 ～ (1年次～3年次にかけて開講)です。この科目は、情報技術検定、基礎情報技術者試験など各資格試験の内容を十分に取り込んだものになっています。一方、最近多くの企業において英語力を測るものさしとしてTOEICが使われています。国際英語コミュニケーション ・ では、TOEIC受験のための英語力を身につけることができます。このように、本学科では、情報教育、英語教育の側面から資格取得が実社会において評価されることを学生に意識付け、積極的に学習をサポートしています。

(出典 「学生便覧 2005」PP.17～18 抜粋)

## (分析結果とその根拠理由)

- ・本校の目的とする「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」に向けた教育課程として、一般教育においては各学年を通じて技術者としての基礎的素養の向上を目指した科目の配置が行われていると考えています。また専門教育においても、企業訪問等から収集した社会的ニーズに基づき学科の目標に合致した教科目の配置が行われていると考えています。
- ・一部の学科目においては、学生の満足度の低いものがありました。このことは、教育課程編成の趣旨が学生に伝わらないことによるものであり、科目担当者の教室運営や授業方法等に工夫や改善の必要が求められるものです。本校では、すでに校長や学科長、教科主任が科目担当者と面談し、改善への第一歩を踏み出しています。今後も教員相互の連携の中で、学生の授業満足度の向上を目指していきたいと考えています。

観点5 - 1 - 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる）に配慮しているか。

## (観点にかかるとの状況)

- ・本校は平成16年4月よりニュージーランドのオタゴ・ポリテクニクとの単位互換による留学制度を実施し、平成16年度は24名の学生が1か年間留学し、すべての学生が単位を修得しました。(資料5 - 1 - 1「協定書」: 訪問調査時閲覧資料)、(資料5 - 1 - 2「合意書」: 訪問調査時閲覧資料)
- ・インターンシップは、「校外実習」として4年次の夏期休業期間を利用しており、教員が実習期間中に企業を訪問し、企業担当者や学生と面談して状況把握に努めております。企業からは、社会人としてのマナーに関する事前準備が不足しているとの指摘もあり、現在、改善に向けて検討を進めているところです。
- ・学力が不足する学生に対し、授業時間外や夏期休業中に補習授業を実施しています。

## (分析結果とその根拠理由)

- ・ニュージーランドのオタゴ・ポリテクニクとの単位互換による留学制度は、本校とオタゴ・ポリテクニクが協同でカリキュラム開発したもので、ニュージーランド政府による高等教育のプログラム認定を受ける等綿密な協力関係による適切な体制が構築されていると考えています。(資料5 - 1 - 3「金沢工業高等専門学校外国留学に関する規程」)(資料5 - 1 - 4「オタゴ・ポリテクニク留学について」)(資料5 - 1 - 5「国際交流高専委員会規程」)
- ・インターンシップは、「校外実習」として選択科目2単位を認定しています。
- ・学力が不足する学生に対する補習授業や個別指導の体制は、校長の指導の元を実施されており、教員の負担が大きい点を除けば充実した体制が確立していると考えています。

(資料5 - 1 - - 3)

「金沢工業高等専門学校外国留学に関する規程」

## 金沢工業高等専門学校外国留学に関する規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、金沢工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第26条の規定に基づき、金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)の学生が、休学することなく外国の大学等に留学することについて必要な事項を定める。

(定 義)

第2条 学則第26条第1項中に掲げる「外国の大学」とは、本校と留学生受入れに関する協力協定を締結するオタゴ・ポリテクニクをいう。

(留学の要件)

第3条 留学が認められる者は、第3学年への進級見込者であって、国際交流高専委員会が定める別表第1の選考基準を満たすものでなければならない。

(留学の申出)

第4条 前条の要件を満たし、留学を希望する者は、学科長の承認を経て、所定の留学願いを校長に提出しなければならない。

(留学者の決定)

第5条 留学者は、留学希望者のうちから、学務会議の議を経て校長が決定する。

(学 費)

第6条 校長から留学の許可を受けた者については、学則第30条第2項の規定により、当該留学期間に相当する月の授業料は、2分の1相当額を減額するものとし、施設設備費は免除する。

2 留学する大学等において必要な授業料等については、本人負担とする。

(終了手続)

第7条 留学を終了し帰国した学生は、速やかに所定の留学終了届に履修期間及び成績が明記された単位取得証明書を添付し、校長に提出しなければならない。

(取得単位の取扱)

第8条 留学において履修した授業科目について修得した単位は、学則第11条第3項の規定に基づき、学務会議の議を経て、本校において履修した授業科目について修得した単位として認定する。

2 前項により認定することができる単位数は、学則第10条及び第11条第1項により本校において認定した単位数と合わせて30単位を超えることはできない。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規程は、平成17年4月1日から改正施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」PP.90～91)

別表第1 オタゴ・ポリテクニク留学選考基準

選 考 基 準

- (1) オタゴ・ポリテクニクで開講されるCEE(Certificate in English and Engineering)プログラムを修了できる見込みがあると認められる者。
- (2) 本校の3年次教育課程において定められた取得単位数について、オタゴ・ポリテクニクで取得し認定される単位数では不足する単位を本校において十分修得できると認められる者。
- (3) 留学期間において、ニュージーランドの法律及びオタゴ・ポリテクニクの規則を遵守できると認められる者。
- (4) 留学修了後、本校の4年次学生として修学を継続する意志があり、留学において得た貴重な学習経験や生活体験を、自己の将来に十分活かすことができると認められる者。
- (5) 日頃から心身ともに自己管理を心がけていると認められる者。
- (6) 留学の内定から出発までの準備や研修などに真面目に取り組む意識があると認められる者。
- (7) 留学の内定から留学修了にわたる期間を通して、学習及び生活態度における向上心の維持、継続が可能と認められる者。
- (8) 留学期間中に課される月例レポートの提出及び定期的な状況報告等が適切にできると認められる者。

( 出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」PP.90～91 )

(資料 5 - 1 - - 4)

「オタゴ・ポリテクニク留学について」

# オタゴ・ポリテクニク留学について

## 留学期間

第3学年の4月下旬から翌年の3月中旬。

## 留学内容

本校の教育の一環として、提携校であるニュージーランドのオタゴ・ポリテクニクで、英語および工学を学ぶ留学プログラムを実施します。本校とオタゴ・ポリテクニクが共同で作成したカリキュラムにより、英語のみならず、数学、物理や演習・実験を含む工学科目も学びます。

その他に、英語の授業を通してニュージーランドの歴史と文化を学び、また異文化への理解を深めます。

## 特長

従来休学を余儀なくされてきた長期留学とは違い、本留学プログラムでは休学することなく留学ができます。

留学期間中は全員ニュージーランドの家庭にホームステイし、自立心を養います。

本留学プログラム修了後は、取得単位を本校3年次の単位として認定します。

## 定員

最小人数12名で、最大30名まで。

## 選抜対象

本校の第2学年に在籍し、第3学年に進級見込みの者で、オタゴ・ポリテクニクへの留学を強く希望するもの。

## 選抜方法

- 英語、数学、物理の基礎学力テスト
- 留学目標についての作文(日本語)
- 日頃の学習や生活態度に関する担任教員による評価
- 学科長と英語教員による面接

以上の結果をもって校長が総合的に選抜する。

( 出典 「学生便覧 2005」 P.100 )

(資料5 - 1 - - 5)

「国際交流高専委員会規程」

## 国際交流高専委員会規程

(目的)

第1条 国際交流高専委員会(以下「本委員会」という)は、国際交流委員会の小委員会として金沢工業高等専門学校の国際交流に関する活動について審議する。

(委員の構成)

第2条 本委員会の構成は、校長を委員長とし、教務主事、研究主事、高専事務局長、国際交流副室長並びに校長が指名した教職員とする。ただし、必要に応じて構成員以外の出席を求めることができる。

2 本委員会は、教務主事が総括委員となる。

(審議事項)

第3条 本委員会は、次の事項について審議する。

(1)教育・研究に関する国際交流プログラムの企画・立案に関する事項

(2)教育・研究に関する国際交流プログラム(交換留学プログラム)の円滑な運営を行うに必要な事項

(3)その他、国際交流委員会から諮問を受けた事項

(招集及び運営)

第4条 本委員会は、委員長が招集し、総括委員が議長となり運営のとりまとめを行う。

(事務担当)

第5条 本委員会の事務は、高専事務局と企画部国際交流室が担当する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」P.58 )

観点 5 - 2 - 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮が考えられる)

(観点にかかる状況)

- ・本校の授業は、講義と演習が組み合わされる授業運営の工夫が行われ、授業科目の目標を実現するための努力が図られています。特に、英語教育やハンズオン教育の柱である創造実験は少人数制により実施されており、効果的であると認識しています。
- ・数学科目の一部でグラフ電卓を活用した教育を実施しています。
- ・各学科ともに共通して、低学年から情報リテラシー教育にコンピュータを活用しています。
- ・芸術科目においてはCG(コンピュータグラフィックス)を活用した教育を行っています。
- ・国際コミュニケーション情報工学科においては、英語教育と情報教育の融合を目指す取り組みを行っています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校では、教育実践目標を実現するために、講義のみの科目は極めて少なく、学生との対話を重視する科目や、小テストを定期的実施し、これまでの理解力を確認しながら授業を実施するもの、さらに問題提起解決型授業を行うことで、教育目的に即した授業を実現していると考えています。  
(資料 5 - 2 - - 1 「創造実験 の学習支援計画書(シラバス)」)
- ・教員の日常的な努力の中で、「わかりやすい授業」の工夫が行われていると考えています。また、数学科目や芸術科目、英語教育においては特色ある教育実践が行われていると認識しています。
- ・学力が不足する学生に対する補習授業や個別指導が日常的に行われる等、教員と学生とのコミュニケーションの緊密さによって、学習意欲の増進を目指す取り組みが行われていると考えています。



(資料5 - 2 - - 1)

## 「創造実験」の学習支援計画書(シラバス)

## 平成17年度 学習支援計画書

科目名		クラス	
創造実験 I		1年全(電気情報工学科)	
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	2	1・2・3	石黒泰治・村本 紘・宮西章・作宮和泉・原 孝美 金光 学・天日三知夫
科目概要			
身近な物理現象、あるいは工学の基礎に関する実験やモノづくりを通して、物理や工学の基礎概念を理解するとともに、学力の充実を図る。また、モノづくりやアニメーション制作の楽しさを体験するとともに、科学や工学の不思議に触れ、自然界の法則や工学への関心を高める。			
教科書		参考書(LCの図書等を含む)	
①「創造実験 I」宮西章他, 金沢工業高等専門学校		①「新編 物理 I」三浦 登 他, 東京書籍 ②「超図解 Flash MX for Windows」工藤雅俊, エクスメディア ③「お絵かきツール Wordの使い方」	
授業方法			
①週2時間続き授業とする。テーマは全部で6テーマが準備されており、1つのテーマにつき5週間かけて授業を行う。 ・テーマ1, 2 担当者: 宮西、作宮、原 ・テーマ3, 4 担当者: 金光、天日 ・テーマ5 担当者: 石黒 ・テーマ6 担当者: 村本			
②「基礎数学Ⅱ」, 「物理学Ⅰ」, 「物理学Ⅱ」との連携を図る。			
評価方法			
評価項目	%	・各学期評価: 実施2テーマの平均評価 ※但し, 1テーマでも 50 点未満の場合は成績不良とする。 その際の評価は最も低い点数とする。  ・学年評価: 6テーマの平均評価 ※但し, 1テーマでも 50 点未満の場合は単位を認定しない。 その際の評価は最も低い点数とする。	
作品及び報告書	60		
宿題	15		
学習態度	15		
出席状況	10		
合計	100		
到達目標または行動目標			
第1学期	①モノづくりに関心と興味を抱き、モノづくりに取り組む前向きな姿勢と集中力を身につける。 ②頭で考えたイメージを実際の形に表現できる。 ③データの合理的な処理法やグラフで結果を表現する方法、レポートの書き方を身につける。 ④誤差の概念を理解し、有効数字が判断できる。 ⑤力、モーメント、速度、加速度などのSI単位を使うことができる。		
第2学期	⑥体験を通して、質量、力、モーメントの概念を具体的に捉えることができ、理解が深まる。 ⑦体験を通して、仕事、仕事率、速度、加速度の概念を具体的に捉えることができ、理解が深まる。 ⑧電磁力について理解できる( $f=Bli$ 、フレミングの左手の法則)。 ⑨電磁力の回転力への利用について理解し、回転し続けるための問題点について理解できる。 ⑩整流子の働きについて理解できる。 ⑪磁気反発力、吸引力を利用したモーターについて理解できる。		
第3学期	①アニメーション制作に関心と興味を抱き、パソコンに取り組む前向きな姿勢と集中力を身につける。 ②共鳴(共振)を利用して、音波の波長や振動数が求められる原理がわかる。 ③波動はエネルギーの伝達現象であることを理解する。 ④波に特有な現象を観察や測定をし、波動への理解が深まる。 ⑤楽器の出す音は、弦や気柱が固有振動数を持っていることと深く関係していることを理解する。 ⑥機械的共振、電氣的共振、地震波などの波動・振動現象への理解が深まる。 ⑦ばねの弾性力とたわみの関係(フックの法則)を捉え、ばねの性質に関する概念を身につける。 ⑧力は合成・分解ができることの理解が深まる。 ⑨周期と振動数の関係を捉え、単振動現象に関する概念を身につける。		

(出典 「平成17年度学習支援計画書」 抜粋)

観点 5 - 2 - 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校は毎年度「学習支援計画書」(シラバス)を作成し、学生及び教職員に配付しています。この中には「科目概要」、「授業方法」、「評価基準」、「授業明細」が記載されており、各学科目の授業担当者が自身の授業計画に基づき作成しています。(資料 5 - 2 - - 1)
- ・科目担当者が作成した「学習支援計画書」(シラバス)は、学科長及び教科主任に提出します。学科長及び教科主任は、教育内容と成績評価の方法等を確認し、不都合がある場合は、面談を通して書き直しを指示します。「学習支援計画書」(シラバス)は、学科長及び教科主任の確認の後、教務係の教員が時間割やオフィスアワーの再確認を行い、事務局で取り纏めが行われています。
- ・本校では、これを学生との「約束」と位置付け、教員と学生双方に「学習支援計画書」(シラバス)の遵守を求めています。
- ・「学習支援計画書」(シラバス)は、学年の始めの授業でそれぞれ学生に配付されます。
- ・また、各授業始めの時間に、「学習支援計画書」(シラバス)に基づいて授業内容と学習目標の確認、成績評価の方法等が確認されます。しかしながら、シラバスの活用が十分に行われてきたとは認識しておりません。学生の立場で観れば、授業の最初に見れば事済む状態であり、この状態の改善を図る必要があると考えています。そこで、平成17年度からシラバスを学習への動機付けを図るための「学習支援計画書」(シラバス)に転換を図り、その充実を目指すこととしました。
- ・教員は、学科長が開催する学科会議や教科主任が開催する教科会議において、授業の進捗確認を図り、「学習支援計画書」(シラバス)の記載内容との整合性を確保し、学生の学習に不都合が出ないように努力しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・過去5年間の「学習支援計画書」(シラバス)に記載された内容を比較した時、徐々に学生の立場に立った内容に改善されてきたと考えています。平成17年度からは、学生との「約束」の位置付けから、さらに学習支援計画書へと展開を図り、学生の自主的学習に配慮した内容への充実を目指します。
- ・学習支援計画書は、「科目概要」、「授業方法」、「評価方法」、「到達目標または行動目標」、「授業明細」、「他科目との関連」、「資格試験との関連」、「受講上の注意」、「教員の居場所・オフィスアワー」、「教員からのコメント」の項目を設定し、統一した様式による記載を各教員に求め利用のしやすさを目指すこととしています。(資料 5 - 2 - - 1)
- ・これまでシラバスが活用されているとは認識していません。今後「学習支援計画書」(シラバス)への転換を図る中で学生に活用されるものにしてまいります。

(資料5 - 2 - - 1)

「学習支援計画書(シラバス)」

平成17年度 学習支援計画書			
科目名			クラス
総合英語II			電気情報工学科 2年
必修・選択	単位数	開講学期	担当教員
必修	3	1・2・3	向井 守
科目概要			
<p>平明な文章で書かれた英文をより速くより多く読んで英語の読解力を養うことを目的とする。また多くの英語を読むことで単語力の増強をも図ることに努める。またそれぞれのパッセージの内容を読んで世界の社会、科学、習慣そして人々に対して興味と理解を深めていく。また不定詞、動名詞、関係詞、仮定法、そして語法の文法学習も一年に引き続いて行う。</p>			
教科書		参考書(LCの図書等を含む)	
①「Password 1」 Linda Butler, Longman		①「高校総合英語FOREST」 石黒昭博, 桐原書店 ②「ジーニアス英和辞典」 小西支七・南出康也, 大修館	
授業方法			
<p>読解は黙読で把握した情報を概要把握のためのQs&amp;Asよりクラスで発表し、その情報をつなぎ合わせ全体の意味を把握していく。その後、さらに細かく理解するため内容理解のための練習問題を行なう。最後に単語の学習と英文内容の要約を進めていく。文法は、いかに文法が実際の文章作成に役立つかを説明する。その後十分な練習を重ねていく。</p>			
評価方法			
評価項目	%	定期試験では、授業で学習した英文の理解と単語の習得状況を測定するものである。また文法の習得状況も測定する。	
定期試験	50		
要約等の提出	20		
授業での発表	20		
授業態度・出席状況	10		
合計	100		
到達目標または行動目標			
第1学期	①教科書の英文を限られた時間内で読み、そこからできる限りの情報がつかみ取れるようになる。 ②日本語を極力介さず、授業内で行うQs&Asの作業より英文の全体的流れが把握できるようになる。 ③学習した単語を使って自分で文章が作れるようになる。		
第2学期	①教科書の英文を限られた時間内で読み、そこからできる限りの情報がつかみ取れるようになる。 ②日本語を極力介さず、授業内で行うQs&Asの作業より英文の全体的流れが把握できるようになる。 ③学習した単語を使って自分で文章が作れるようになる。		
第3学期	①教科書の英文を限られた時間内で読み、そこからできる限りの情報がつかみ取れるようになる。 ②日本語を極力介さず、授業内で行うQs&Asの作業より英文の全体的流れが把握できるようになる。 ③学習した単語を使って自分で文章が作れるようになる。		

(出典 「平成17年度 学習支援計画書」抜粋)

第1学期 授業明細				
週	項目	内容	予習・復習・宿題・その他	時間(分)
1	Chapter 1 A Student and a Dancer	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP2-3)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
2	Chapter 1 A Student and a Dancer	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP3-6)	要約をノートに書き出す	30
3	Chapter 2 Making a Dream Come True	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP9-10)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
4	Chapter 2 Making a Dream Come True	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP10-13)	要約をノートに書き出す	30
5	Chapter 3 A Long-Distance Runner	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP16-17)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
6	Chapter 3 A Long-Distance Runner	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP17-20)	要約をノートに書き出す	30
7	Chapter 5 Antarctica	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP34-35)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
8	Chapter 5 Antarctica	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP35-38)	要約をノートに書き出す	30
9	不定詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法</li> <li>・SVO+to不定詞</li> <li>・不定詞の意味所の主語</li> <li>・使役動詞、知覚動詞を使った表現</li> </ul>	不定詞に関する練習問題プリント	40
10	動名詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語、補語、目的語、前置詞の目的語となる動名詞</li> <li>・不定詞のみ、あるいは動名詞のみを目的語にする動詞</li> <li>・両方をとる動詞</li> </ul>	動名詞に関する練習問題プリント	40

第2学期 授業明細				
週	項目	内容	予習・復習・宿題・その他	時間(分)
1	Chapter 8 Mount Fuji	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP54-55)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
2	Chapter 8 Mount Fuji	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP55-58)	要約をノートに書き出す	30
3	Chapter 9 Your Sense of Taste	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP66-67)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
4	Chapter 9 Your Sense of Taste	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP67-70)	要約をノートに書き出す	30
5	Chapter 11 Blood	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP80-81)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30

(出典 「平成17年度 学習支援計画書」抜粋)

6	Chapter 11 Blood	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP81-84)	要約をノートに書き出す	30
7	Chapter 14 From Play to Work	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP106-107)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
8	Chapter 14 From Play to Work	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP107-110)	要約をノートに書き出す	30
9	関係詞 I	・基本的用法 ・継続用法 ・複合関係詞	関係詞の練習問題プリント	40
10	関係詞 II	・関係副詞 ・その他の用法	関係詞の練習問題プリント	40

第3学期 授業明細				
週	項目	内容	予習・復習・宿題・その他	時間(分)
1	Chapter 15 Listening for the Truth	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP114-116)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
2	Chapter 15 Listening for the Truth	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP115-118)	要約をノートに書き出す	30
3	Chapter 17 Song Kran	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP140-141)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
4	Chapter 17 Song Kran	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP141-144)	要約をノートに書き出す	30
5	Chapter 20 Graduations	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP161-163)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
6	Chapter 20 Graduations	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP162-165)	要約をノートに書き出す	30
7	Chapter 21 Comfort Food	導入、黙読、概要把握Qs&As、内容理解確認練習問題 (PP173-175)	分からない単語をノートに書き出し辞書で調べる	30
8	Chapter 21 Comfort Food	内容まとめ・単語整理、単語習得確認練習問題 (PP175-178)	要約をノートに書き出す	30
9	仮定法	・ifを使った仮定法 ・wishやas ifの後の仮定法 ・未来のことを表す仮定法	仮定法の練習問題プリント	40
10	語法	直接語法と間接語法	語法の練習問題プリント	40

(出典 「平成17年度 学習支援計画書」抜粋)

他科目との関連	
当授業の前提となる科目	当授業を前提とする科目
①総合英語Ⅰ	①総合英語Ⅲ ②英語スキルズⅢ
資格試験との関連	
①実用英語技能検定試験準2級：1次試験筆記「短文の語句空所補充問題」「会話文の文空所補充問題」「語句整序問題」に関連している。	
受講上の注意	
①わからない単語があっても気にせず、ある程度のスピードで英文を読む習慣をつけること。 ②読んだ英文の中にある情報をメモする習慣をつけること。	
教員の居場所・オフィスアワー	教員からのコメント
31・103室 月曜～金曜 16時～17時 土曜 10時～12時 上記以外の時間でもいつでも受け付けます。もしくは予約を してください。	この授業を通して英語を少しでも速く多く読む技術を身に付けることを願っている。

(出典 「平成17年度 学習支援計画書」抜粋)

観点5 - 2 - 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点にかかる状況）

- ・本校が実施している「ハンズオン教育」の柱となる創造実験は、モノづくりに対する興味を引き出し、創意工夫の重要性を認識させる等の創造性を育む教育であると考えています。また、4年次に実施している校外実習をインターンシップとして、学生に企業現場を体験させる重要な機会として活用しています。（資料5 - 2 - - 1「校外実習（インターンシップ）の受入企業数」）（資料5 - 2 - - 2「インターンシップ参加者数」）（資料5 - 2 - - 3「校外実習（インターンシップ）先」）

（資料5 - 2 - - 1）

「校外実習（インターンシップ）の受入企業数」

		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	計
（7月～8月実施）	県内企業	52	51	55	57	56	48	319
	県外企業	32	27	28	23	23	25	158
	合計	84	78	83	80	79	73	477

(資料5 - 2 - - 2)

「インターンシップ参加者数」

		平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
インターンシップ参加 学 生 数	県内	98	90	100	95	84
	県外	29	29	32	29	26
	小計	127	119	132	124	110
7/1 現在の在籍数		139	123	134	137	118
5/1 現在の休学者数		0	0	0	11	5
参加対象者数		139	123	134	126	113
参加割合		91%	97%	99%	98%	97%

(注記.平成15年度の休学者の11名及び平成16年度の休学者の5名のうち4名は留学によるものです)

(資料5 - 2 - - 3)

「平成16年度 校外実習(インターンシップ)先」

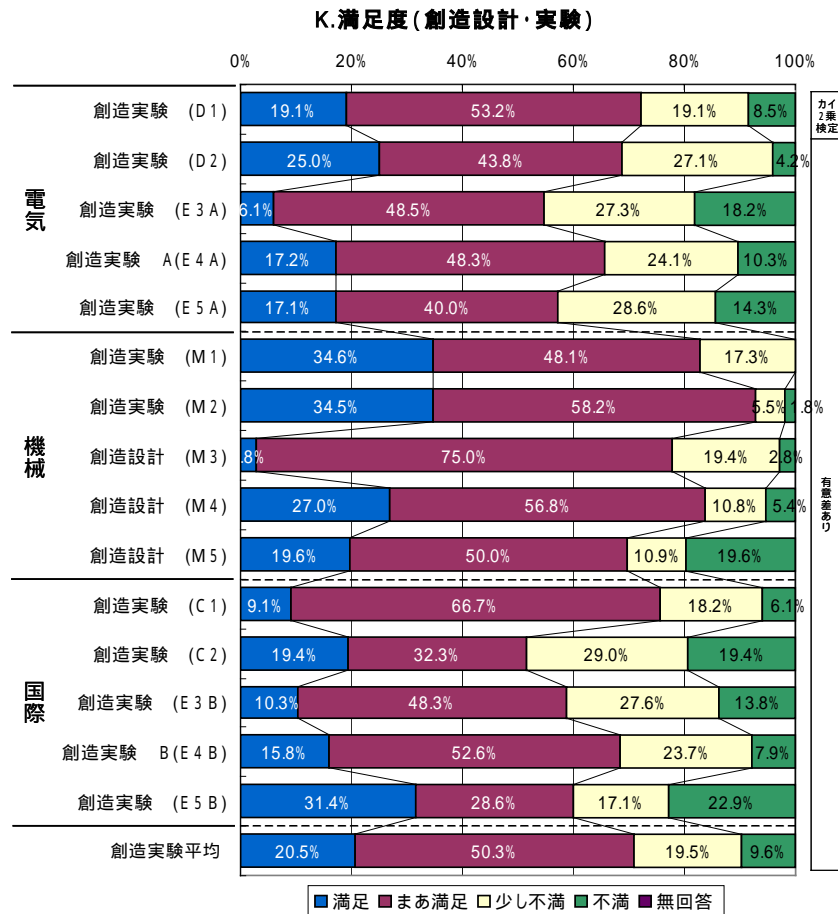
石川県内の実習先			県外の実習先	
	企業名		企業名	企業名
1	(株)ウイルコーポレーション	25	(株)朝日電機製作所	1 中越産業株式会社
2	(株)でんけん	26	(株)別川製作所	2 タカラ産業(株) 高岡工場
3	(株)石野製作所	27	大京(株)	3 (株)イムラ封筒
4	(株)トランテックス	28	(株)中本鉄工	4 東燃ゼネラル石油(株)
5	アール・ビー・コントロールズ(株)	29	ソニーケミカル(株) 根上事業所	5 (株)日研工作所
6	(株)根上工作所	30	富士通サポート・サービス(株)	6 グローリ商事(株)
7	北陸通信工業(株)	31	シーエスエヌ(株)	7 東レ(株) 滋賀事業所
8	米沢電気工事(株)	32	高松機械工業(株)	8 鐘淵化学工業(株) 滋賀工場
9	小松電子(株)	33	玉田工業(株)	9 ユニチカ(株)
10	(株)金沢総合研究所	34	(株)金田鉄工所	10 小島プレス工業(株)
11	かがつ(株)	35	(株)三光製作所	11 富士フイルムメディカル(株)
12	北陸電力(株)	36	(株)白山機工	12 スパイシーソフト(株)
13	ユアサ電源システム(株)	37	浅井鉄工(株)	13 NECテレネットワークス(株)
14	(株)NTTドコモ北陸	38	(株)イセキ北陸	14 (株)ネットマークス
15	(株)クエストエンジニアリング	39	(株)村谷機械製作所	15 三菱化学エンジニアリング(株)
16	(株)シーピーユー	40	アムズ(株)	16 (株)ルネサンステクノロジー
17	大同工業(株)	41	(株)イコマ・メカニカル	17 (株)安川電機
18	中村留精密工業(株)	42	長野ポンプ(株)	18 (株)ベン 相模原工場
19	(株)BBS金明	43	(株)馬場鉄工所	19 アロカ(株)
20	日本放送協会 金沢放送局	44	山一精工(株)	20 (株)アルファシステムズ
21	発統電機(株)	45	明治乳業(株) 北陸工場	21 (株)日産ディーゼル技術研究所
22	(株)北陸計器工業	46	オリエンタルチエン工業(株)	22 (株)前川製作所
23	若松梱包運輸倉庫(株)	47	(株)ジー・テック	23 三菱電機ビルテクノサービス(株)
24	(株)ヨネモリ	48	澁谷工業(株)	24 富士電機システムズ(株)
				25 (株)沖電気カスタマアドテック

(分析結果とその根拠理由)

- ・入学者のほとんどが「モノづくり」に興味はあっても、経験がない状況であると言えます。1年次からの創造実験において「モノづくり」に取り組む学生の真剣な姿と、授業アンケートの結果は、この科目の重要性と必要性を示すものと考えています。(資料5 - 2 - - 4「創造実験の授業アンケート調査結果」)
- ・また、校外実習についても、人間的な成長に繋がっていると実感できます。一方で、受け入れ企業の負担も大きく、平成15年度以降の入学生に対するインターンシップの実施について事前と事後の教育のあり方の検討を進めています。(資料5 - 2 - - 5「校外実習の授業アンケート調査結果」)

(資料5 - 2 - - 4)

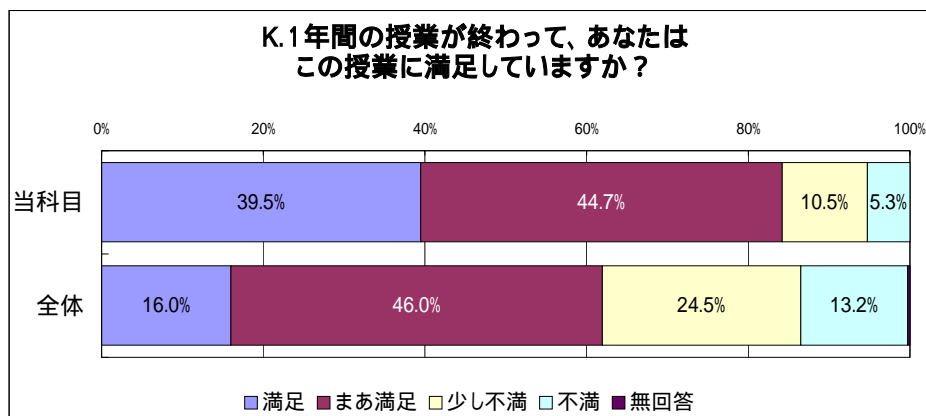
「創造実験の授業アンケート調査結果」



(出典 「平成16年度 KTC 授業アンケート調査結果」 P.38)

(資料5 - 2 - - 5)

「校外実習の授業アンケート調査結果」



(出典 「平成16年度 KTC授業アンケート調査結果」 P.413)



観点 5 - 3 - 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校では、成績評価基準や進級及び卒業認定基準を明確に定め、「学生便覧」及び「学習支援計画書(シラバス)」に明記し全学生に配付しています。また、この内容の説明も入学式後のオリエンテーションや保護者への説明会で説明し、理解を求めています。(資料 5 - 3 - - 1 )(資料 5 - 3 - - 2 )
- ・学習支援計画書(シラバス)には、定期試験や宿題・演習課題、出席・学習態度など、科目毎の評価基準の割合が明示されています。授業担当教員は、学生に最初の授業で科目のガイダンスを行い、成績評価の割合やオフィスアワーについて説明しています。また、授業担当教員は、定期試験の解答用紙を学生に返却し、正答の解説と点数配分の説明を行っています。
- ・本校では、個々の教員が担当した教科の成績を学習支援計画書(シラバス)の成績評価基準に基づいて評価しています。教員が作成した成績票は教務係を通じてクラス担任に提出され、成績が集計されます。
- ・クラス担任は、クラスの学生の成績集計を確認し、教務委員会に報告します。クラス担任は、学生からの成績の問い合わせに応じ、疑問等がある場合は教務係を通して科目担当教員に確認します。
- ・単位認定・進級・卒業認定は、教務委員会が作成した資料に基づき、学務会議(進級判定会議)で審議されています。
- ・学務会議(進級判定会議)の審議結果は、全教員が出席する教員会議に報告され、承認を得ています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・成績評価の厳正化が社会から強く求められています。こうした社会的状況を学生及び保護者が十分認識する必要があると考えています。日頃から授業を進める中で学生に指導を行い、学生の努力を促すように努めており、各教員の評価が適切に行われていると考えています。
- ・保護者会において、本校の成績評価のあり方の説明を行い、理解を促しています。また、個別に学生の成績状況等を説明し、保護者を通じて学生に周知されていると認識しています。
- ・クラス担任は、各教科の成績集計に携わることで学生個々の修学状況全般を把握し、学生からの問い合わせに対応する仕組みを有しています。
- ・成績評価、単位認定、進級・卒業認定は、教科担当教員、クラス担任、教務委員会の確認を得て資料が作成され、学務会議で最終確認が行われ、さらに教員会議に報告され、承認を得る一連の手続きに基づいて適切に実施されていると考えています。

(資料5 - 3 - - 1)

「金沢工業高等専門学校学習指導に関する実施規程」

## 金沢工業高等専門学校学習指導に関する実施規程

### 第1章 総 則

第1条 この実施規程は、本校学則第10条に基づいて定めるものとする。

### 第2章 授 業

第2条 始業の合図により出席簿を持って教室に行き、学生一同の起立・敬礼ののち出席の調査をする。

第3条 終業の合図により、始業時と同じく敬礼ののち解散させる。

第4条 欠課者が多数あるときでも授業を行う。また、終業時刻前には解散させない。

第5条 授業中は、教室内の秩序・維持につとめ、服装・態度についても注意を与え、はなはだしく悪い場合には学級担任に連絡する。

第6条 授業時間割の変更は、教務の指示により掲示する。無断で休講や変更はしない。

### 第3章 出欠取扱

第7条 出席簿には、欠課はノ、遅刻はノ、早退は と記入する。誤記はメにて訂正する。

第8条 始業時刻よりあとに入室する場合は遅刻、終業時刻前に退室する場合は早退とする。

第9条 学級担任は、出席簿に欠席及び欠課についての理由を記入する。

第10条 忌引き及び伝染病による出席停止、又は下記の各号に該当するものは、出席簿にそれぞれ「忌・伝・公」などを記入する。下記の各号に該当して欠席欠課する場合は、出席扱いとする。

- (1) 公用によるもの
- (2) 天災及び交通機関の事故によるもの
- (3) 資格試験・就職試験の受験によるもの
- (4) 公認対外活動によるもの
- (5) 兄弟・姉妹の結婚、父母、兄弟・姉妹の祭日によるもの

第11条 出欠の状況は、定期試験の成績とともに提出する。

### 第4章 試 験

第12条 試験は定期試験、追試験、再試験、単位追認試験とする。

第13条 定期試験は、各学期末に行う。

第14条 追試験は、やむを得ない事由によって定期試験を受けることのできなかった者に行う。

第15条 再試験は、定期試験の評価が不合格であった者について行うことがある。

第16条 単位追認試験は、単位を取得できなかった科目について行う。

第17条 故意に試験を受けなかったと認められる者、又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者は、その科目の試験の成績は零点とする。

第 18 条 試験中、不正行為をしたものは、その時間以後の受験を停止させ、当該試験期間中の全科目の試験の成績は零点とする。

#### 第 5 章 成績評価

第 19 条 学業成績の評価は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況を総合して行う。

第 20 条 学業成績は、100 点法をもって評価する。

第 21 条 前条の評価は、次の区分により評定する。

評 点	100～80	79～60	59～50	49～0
評 定	5 (優)	4 (良)	3 (可)	2 (不可)

第 22 条 学年の学業成績は、評定をもって指導要録に記載する。

2 成績証明書等は、原則として評定によって表示する。

第 23 条 単位追認試験を受けて単位を取得した科目の評価は、50 点とする。

第 24 条 学業成績は、各学期末に各科目ごとに評価する。

第 25 条 各科目の担当教員は、定められた授業時間数(1 単位あたり 30 単位時間)の 5 分の 4 以上出席している者について、その科目を履修したものと認め、学業成績を評価する。

第 26 条 校長は、各学期末成績が 50 点以上の科目について、学年末にその科目を習得したものと認定する。

#### 第 6 章 進 級

第 27 条 校長は、次の各号のすべてに該当する者について、その学年の課程を修了したことを認定する。

- (1) 平素学生の本分を全うし、かつ勉学に精励したものと認められること
- (2) その学年中の欠席日数が、出席すべき日数の 5 分の 1 未満であること
- (3) 学則に定める学年の科目をすべて履修していること
- (4) 学則に定める学年の科目をすべて修得していること
- (5) 特別活動の結果が良好であること

第 28 条 学則に定める学年の科目をすべて修得できなかった者について、修得できなかった科目が 3 科目以下で、また、その単位数の合計が 8 単位以下であるとき、校長はその学年の課程を修了したものと扱う。

第 29 条 第 1 学年から第 4 学年までについて、その学年の課程の修了又は修了扱いの認定を受けた者は、上位の学年に進級させる。

第 30 条 原級に留められた者は、その学年の定められた科目をすべて再履修しなければならない。

第 31 条 修了扱いの認定を受けて進級した者は、修得できなかった科目について単位追認試験を受けなければならない。

第 32 条 修得できなかった科目については、現に在籍する学年の定める科目とみなす。

第 33 条 同一学年の再履修は、1 回を超えてはならない。ただし、長期休学により再履修できなかったときは、この限りではない。

第 34 条 学年の課程の修了及び修了扱いの認定は、校長が教員会議にはかっている。

## 第7章 卒業

第35条 卒業の認定は、第5学年の課程の修了又は修了扱いの認定を受けた者について行う。

第36条 卒業の認定は、校長が教員会議にはかっている。

## 第8章 表彰

第37条 学則による表彰は次のとおりとする。

- (1) 進級及び卒業の際、皆勤、精勤の者を賞する
- (2) 学校生活が模範的であり、学業成績が優秀である者を賞する
- (3) 本校教育の振興に功績があったと認められる者を賞する

## 附 則

- 1 本実施規程に必要な内規は、別に定める。
- 2 本規程は、昭和37年4月1日から実施する。
- 3 本規程は、昭和47年4月1日から実施する。
- 4 本実施規程は、昭和56年4月1日から実施する。
- 5 本実施規程は、平成元年4月1日から実施する。
- 6 本実施規程は、平成4年4月1日から実施する。

## (備考)

### 慶弔による出席扱い

兄弟・姉妹の結婚	1日
父母、兄弟・姉妹の祭日	1日
忌引き「父母」	7日
忌引き「祖父母、兄弟・姉妹」	3日
忌引き「伯叔父母、従兄弟・従姉妹、その他の家族」	1日

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」PP.87～89)

(資料5 - 3 - - 2)

## 授業について

### 授業時間

授業は各学年ごとに編成されている授業時間割に従い、学級ごとに週単位で行われます。

#### ●授業時間

時限	時間帯
シヨートホーム	8:40～8:50
第1限	9:00～9:45
第2限	9:55～10:40
第3限	10:50～11:35
昼 食	
第4限	12:15～13:00
第5限	13:10～13:55
第6限	14:05～14:50
第7限	15:00～15:45
第8限	15:55～16:40

### 授業時間割の変更

授業時間割に変更があるときは、その都度伝達します。

### 欠席・欠課の届け

単位を修得するためには、授業に出席することが前提となります。やむを得ない事情で欠席する場合でも、定められた授業時間数の5分の1を超えて欠席した場合は単位が与えられません。

始業時刻より後に入室する者は遅刻、終業時刻前に退室するものは早退とします。

欠席、遅刻をする場合は、必ず8時～8時40分の間に学校(076)248-1080へ保護者が電話で届け出るようにしてください。

### 出席扱い

下記に該当する、欠席、欠課は出席扱いとなりますので、担任に申し出てください。なお、法定伝染病については、校長が出席を停止させることがあります。

#### 慶弔による出席扱い

兄弟・姉妹の結婚	1日
父母、兄弟・姉妹の法要	1日
父母の忌引	7日
祖父母、兄弟・姉妹の忌引	3日
伯叔父母、従兄弟・従姉妹その他の家族の忌引	1日

#### その他の理由による出席扱い

公用によるもの
天災及び交通機関の事故によるもの
国家試験・就職試験の受験によるもの
公認対外活動によるもの

## 試験について

授業科目の履修状況を確認し、単位を認定するための資料として試験が行われます。試験の種類には各学期末に行われる定期試験の他、再試験、追試験及び単位追認試験があります。

### 定期試験

本年度の定期試験日程は、次のとおりです。

第1学期定期試験 6月24日から6月29日まで

第2学期定期試験 11月15日から11月19日まで

第3学期定期試験 2月24日から3月1日まで

なお、その学期の学校納入金を納めていない者は定期試験を受けることができません。また、試験中不正行為をした者は、その時間以後の受験ができなくなり、当該試験期間中の全科目の試験の成績が零点となります。

### 再試験

再試験は、定期試験終了後、成績評価が不合格であった者について実施することがあります。

### 追試験

追試験は、病気欠席や部活動による対外試合など、やむを得ない事由によって定期試験を受けることができなかった者に対して実施します。

### 単位追認試験

単位追認試験は、学年の課程修了が認められた者で、単位を修得できなかった科目について行います。

## 成績について

### 単位認定と成績評価

学業成績の評価は、試験の成績、平素の学習状況及び出席状況を総合し、シラバスの評価基準に従って行います。

学業成績は、各学期末に各科目ごとに、それぞれの科目の担当教員が、定められた授業時間数(1単位あたり30単位時間)の5分の4以上出席している者について、その科目を履修したものと認め評価します。そして学年末成績の評価が50点以上の科目について、校長が、その科目を修得したものと認定します。

学業成績は100点法で評価され、50点以上を合格とします。この評価は次の区分により評定され、指導要録、及び成績証明書等に記載されます。単位追認試験を受けて修得した科目の評価は50点とします。

評点	100～80	79～60	59～50	49～0
評定	5 (優)	4 (良)	3 (可)	2 (不可)

なお、故意に試験を受けなかった場合、または懲戒処分のため試験を受けることができなかった場合には、その科目の試験の成績を零点とします。

### 成績通知

成績通知票は各定期試験後に保護者あてに直接郵送します。また、成績等で懇談の必要のある場合は、保護者に来校願うことがあります。

(出典 「学生便覧 2005」 PP.95～97)

## 進級について

### 進級の条件

- 平素学生の本分を全うし、かつ勉学に精励したものと認められること。
  - その年度中の各科目に定められた授業時間数の5分の4以上出席していること。
  - 学則に定める学年の最低修得単位を修得していること。
  - 学則に定める特別活動の単位を修得していること。
- 以上の条件をすべて満たしている者については、第1学年から第4学年までは、その学年の課程を修了したものと認定し、次学年に進級できます。
- ただし、学則に定める学年の最低修得単位を修得できなかった者については、未修得科目数が3科目以下で、かつその単位の合計が8単位以下である場合、次学年への進級と認めます。なお、未修得科目は、進級した学年の年度中に単位追認試験等により、単位の追認を受けなければなりません。したがって、前学年の科目が未修得である限りは、次学年への進級は認められません。
- 進級できなくて、原級に留められた者は、その学年の定められた科目のすべてを再履修しなければなりません。

### 転科

第1学年の修了時に限り、転科を希望する学生に対して、受け入れ学科に余裕がある場合のみ、成績等を考慮して転科を許可することがあります。

### 在学の制限

同一学年の再履修は、1回を超えてはなりません。

## 卒業について

### 卒業

卒業は、平素学生の本分を全うし、かつ第5学年の課程を修了したと認められた者について、校長が決定します。卒業を認められた者には、準学士(工学)の称号が付与されます。卒業を認められない者は、第5学年の定められた科目をすべて再履修しなければなりません。

### 就職と進学

5年間の専門教育を身につけた卒業生の進路は、大きく開かれています。

就職率は毎年100%です。  
さまざまな分野で実践的エンジニアとして活躍する本校卒業生に対する企業の評価は非常に高く、多くの卒業生が大手企業に就職しています。  
さらに高度な勉学を志す人は、推薦あるいは一般試験を受けて金沢工業大学、または国公立・私立大学の3年次に編入できます。

各学生の進路については進路指導委員会が中心となり、4年次の進路希望調査を始めとして、進路説明会、学級担任と保護者の懇談会、個人面接等、一人ひとりと親身に話し合い、1年間をかけてきめ細やかな指導をしています。

観点5 - 4 - 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校における「特別活動」は、各学年で30時間以上実施し、授業では得られない面を補い、学生の人間性・社会性を養います。クラス担任(資料5 - 4 - - 1「クラス担任一覧」)は、週1回の「特別活動」においてテーマ(例えば、本校近隣の清掃作業など)を定めて人間力の養成を図る取り組みを進めています。また、クラス担任は、毎朝授業開始前に10分間のショートホームを行うことで学生の状況把握にも努めています。
- ・平成17年度から1年生の「特別活動」において、キャリアデザイン教育を実施することとしています。2年生以降については、平成18年度からの実施としています。(資料5 - 4 - - 2「特別活動におけるキャリアデザイン」)
- ・クラス担任制度として、1クラスに正・副担任を配置し、どちらか1名をベテランの教員としています。明確な役割分担は決めていませんが、日々学生とのコミュニケーションを図り、協議して職務を遂行しています。また、学年ごとに学年主任を置き、学科・学年を超えたコミュニケーションを図る仕組みとしてクラス担任会議を有しています。ちなみに、学科長は副担任として配置されています。これらの取り組みにより、学生の状況を的確に把握すると共に、クラス担任としての資質とレベル向上を教員間の連携と協力から図っています。

(資料5 - 4 - - 1)

「クラス担任一覧」

学 科 名	学年クラス等 (* : 学年主任)	クラス担任		所属学科	職名
		上段 : 担任	下段 : 副担任		
電気情報工学科	1年 *	大 慶 清	一般科目		教授
		香 林 利 男	電気情報工学科		教授
	2年 *	直 江 伸 至	電気情報工学科		教授
		佐 伯 昭 彦	一般科目		助教授
	3年 *	下 谷 俊 昭	電気情報工学科		教授
		土 地 邦 生	電気情報工学科		講師
電 気 工 学 科	4年 A	南 出 章 幸	電気情報工学科		助教授
		表 義 憲	電気情報工学科		教授
	4年 B	川 崎 順 治	国際コミュニケーション情報工学科		助教授
		榊 原 東 一 郎	国際コミュニケーション情報工学科		教授
	5年 A	石 黒 泰 治	電気情報工学科		講師
		林 孝 広	電気情報工学科		助教授
	5年 B	田 村 景 明	国際コミュニケーション情報工学科		教授
		中 川 秀 敏	国際コミュニケーション情報工学科		助教授
機 械 工 学 科	1年	大 崎 富 雄	一般科目		助教授
		天 日 三 知 夫	機械工学科		教授
	2年	村 田 俊 也	一般科目		助教授
		古 屋 栄 彦	機械工学科		助教授
	3年	堀 隆 一	機械工学科		教授
		山 田 弘 文	機械工学科		教授
	4年 *	杉 森 勝	機械工学科		教授
		青 木 敏 彦	一般科目		教授
	5年 *	松 井 洋	機械工学科		教授
		金 光 学	機械工学科		教授
国際コミュニケーション 情報工学科	1年	原 孝 美	一般科目		助教授
		今 澤 明 男	国際コミュニケーション情報工学科		教授
	2年	坂 倉 忠 和	国際コミュニケーション情報工学科		講師
		中 沢 政 幸	国際コミュニケーション情報工学科		助教授
	3年	村 本 紘	国際コミュニケーション情報工学科		教授
	半 田 敬	一般科目		教授	

(資料 5 - 4 - - 2 )

「特別活動におけるキャリアデザイン」

平成 17 年 4 月 1 日

特別活動における“キャリアデザイン”

	テーマ	授業内容	課題
第1学年	キャリアデザインを行い、目標を設定する。	1. 「キャリアデザインの奨め」講演：自己開発センター長 本年度 11/25(金・7限)、予備日 12/2(金・7限) 2. 自己分析を行う。 本年度 12/16(金・7限) 3. 将来目標を設定する。 本年度 1/13(金・7限) 4. 目標達成への道筋を考える。 本年度 1/27(金・7限) 5. 他者との意見交換を通じ、自身の考えを深める。 本年度 2/3(金・7限)、予備日 2/10(金・7限) 1～5について、次年度以降は1学期に実施する。 6. 目標に対する自己点検・自己評価。 次年度より2月に実施する。	1. ミニツペーパーの提出(教員が学生の理解度を把握するための用紙)。 2. 「自分は何者か?」「好きなこと嫌いなこと」等、分析シートの作成(数分間で思いつづものを数多く挙げる)。キャリアデザインシートⅠ「自己分析」を作成する。 3. キャリアデザインシートⅡ「将来目標」を作成する。 4. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」を作成する。次年度以降は「在学中の目標」に「今年度の目標」を含める。キャリアデザインシートⅣ「まとめ」を作成。 5. キャリアデザインシートⅠ～Ⅳを修正する。 6. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の「今年度の目標」に対する“達成度”を記述する。目標そのものが変わる場合などは、キャリアデザインシートの訂正を行う。 ※ キャリアデザインシートを綴ったキャリアデザインノート(1年)を提出する。
第2学年	「自立/自律」とは何かを理解し、行動に表す。	1. “今年度の目標”を設定する。4月 2. 「自立/自律について考える」講話。5月 3. 「コミュニケーション能力について考える」講話。6月 4. 「技術者になるということの意味」講話。11月 5. 心理テスト(性格検査)の実施。12月 6. 目標に対する自己点検・自己評価。2月	1. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」に“今年度の目標”を記述する。 2. 「自立/自律」をテーマとした作文を書く。 3. 「国際化・情報化」、「思いやりの心」などをテーマとする作文を書く。 4. 「やりがい」、「目標とする技術者像」などをテーマとする作文を書く。 5. キャリアデザインシートⅠ「自己分析」に検査結果を記述する。 6. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。目標そのものが変わる場合などは、キャリアデザインシートの訂正を行う。 ※ キャリアデザインシートや作文を綴ったキャリアデザインノート(2年)を提出する。
第3学年	社会的責任と役割を自覚する。	1. “今年度の目標”を設定する。4月 2. 「技術者倫理について考える」講話。11月 3. 「仕事と人生、フリーターやニート」講話。12月 4. ヒーローに学ぶ(ProjectXのビデオ上映或いは卒業生による講演)。1月 5. 目標に対する自己点検・自己評価。2月	1. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」に“今年度の目標”を記述する。 2. 「技術者倫理」に関する情報を収集し、自身の意見を添えたレポートを作成する。 3. 「職業観」に関する自身の意見を、キャリアデザインⅣ「まとめ」に記述する。 4. 高い目標に粘り強く挑んだ人の人生観や職業観を、自身の人生観・職業観に照らし、気づいたことがらをキャリアデザインⅣ「まとめ」に記述する。 5. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。目標そのものが変わる場合などは、キャリアデザインシートの訂正を行う。 ※ キャリアデザインシートやレポートを綴ったキャリアデザインノート(3年)を提出する。

特別活動における“キャリアデザイン”

	テーマ	授業内容	課題
第4学年	自分を活かして生きていく道を選ぶ。	1. “今年度の目標”を設定する。4月 ＜進路指導主事講話 進路に関する予定など＞ 2. マナー講習会。6月 3. 「インターンシップの目的について」講話。6月 ＜インターンシップ 実施および報告会の開催＞ ＜就職特別講座、進学特別講座 9月～2月＞ ＜「企業が求める人材」講話。(学科長)＞ 4. キャリアデザインシートⅠ「自己分析」、Ⅱ「将来目標」の作成。11月 ＜個別面談＞ ＜就職・進学先の調査 (各自が課外で行う)＞ 5. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」、Ⅴ「自己アピール」の作成。1月 6. 目標に対する自己点検・自己評価。2月	1. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」に“今年度の目標”を記述する。 2. 講習会后、各自で練習する。 3. インターンシップ調査書(希望業種の選定)、事前レポート作成 ＜インターンシップ報告書、礼状作成、報告会発表資料の作成＞ ＜就職試験や編入学試験に関する演習＞ ＜「企業が求める人材」に関する感想文作成＞ 4. 自己の適性や可能性をキャリアデザインシートⅠに記述する。希望する業種・職種や編入したい学科への志望動機をキャリアデザインシートⅡに記述する。 ＜個別面談を通じ進路先を絞る＞ ＜企業・大学に関する情報収集ノート作成＞ 5. 5年生で行いたい研究分野とその理由についてキャリアデザインⅢに記述する。キャリアデザインシートⅤ「自己アピール」および履歴書・自己紹介書を作成する。 6. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。目標そのものが変わる場合などは、キャリアデザインシートの訂正を行う。 ※ キャリアデザインシートやレポートを綴ったキャリアデザインノート(4年)を提出する。
第5学年	5年間を総括し、将来を展望する。	1. “今年度の目標”を設定する。4月 ＜就職・進学試験直前対策＞ ＜就職・進学に関するアドバイス＞ ＜就職試験・編入学試験、試験結果の報告＞ 2. 「社会で壁にぶつかったときの対応と生涯学習について」講話。10月 3. 「人生の節目でキャリアデザインを行う」講話。11月 4. 目標に対する自己点検・自己評価。2月	1. キャリアデザインシートⅢ「在学中の目標」に“今年度の目標”を記述する。 ＜面接練習＞ ＜受験先に対応した自己アピールシート、履歴書(志望動機)の作成＞ ＜入社試験内容報告書の作成＞ 2. 聴講ノートを作成する。 3. 新生活(就職・大学生生活)に関する目標の設定をキャリアデザインシートⅡ「将来目標」に記述する。 4. キャリアデザインⅢ「在学中の目標」の“今年度の目標”に対する“達成度”を記述する。また、高専時代を総括し「総括シート」を作成する。 ※ 総括シートやキャリアデザインシートを綴ったキャリアデザインノート(5年)を提出する。

第2学年～第5学年に関しては平成18年度より実施予定。  
＜ ＞は、「特別活動」以外の時間に行われるものです。



- ・穴水湾自然学苑教育（人間と自然 ・ ・ ）には、クラス担任、副担任が同行し、学生と共に活動する中で、相互の信頼関係の醸成に努めています。（資料 5 - 4 - - 3）
- ・今年度から全学生が毎日自身が感動した出来事や実施した善い行いをレポートにまとめ担任に提出しています。内容は学生自身の価値観によってさまざまであることは当然ですが、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションの重要なツールとして生かされると考えています。（資料 5 - 4 - - 4 「『心の教育』について」）

（分析結果とその根拠理由）

- ・本校の目標である「人間力の養成」には、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションが不可欠の要素であると考えています。1日一感動運動の充実を図り、人間の素養の涵養に努めます。
- ・クラス担任を中心とする特別活動やショートホームによって人間の素養の涵養に努めています。
- ・穴水湾自然学苑教育は本校の特色ある教育として、人間の素養の涵養に努めています。

（資料 5 - 4 - - 3）

「穴水湾自然学苑教育」

# 穴水湾自然学苑教育

## 科目「人間と自然」

### 研修目標

豊かな自然の中で学生同士あるいは学生と教員が寝食を共にし、お互いの信頼関係を深めるとともに、規律ある生活やグループ活動を通じ、思いやりと感謝の心を育み、倫理観を養い、チームワークやリーダーシップの大切さを学ぶ。また、生活関連行事等を通じ、日本人としての自覚を深める。

#### 第1学年

団体生活を通じ、挨拶や時間を守り協力し合うことがいかに重要か理解するとともに、グループ活動によりチームワークの大切さを体験し、仲間づくりのきっかけを得る。また、生活関連行事等を通じ、日本人としての自覚を深める。

#### 第3学年

グループ活動を通じ、自然への理解を深め、チームワークやリーダーシップを発揮するとともに自己の限界に挑戦する。また、団体生活や奉仕活動を通じ、思いやりの心を養いマナー等を体得するとともに、歴史講話等により日本人としての自覚を深める。

#### 第5学年

新たな旅立ちを前にして自らの生き方を考えるとともに、グループ活動等を通して、自ら判断・行動し、自らを律し得る実践力を高める。また、グループ討議等により日本人としての自覚を深める。

穴水湾自然学苑

〒927-0025 石川県鳳珠郡穴水町由比ヶ丘 TEL.0768-52-1279

（出典 「学生便覧 2005」P.73）

## 平成 17 年度第 1 学年研修日程

	4月4日(月)	4月5日(火)	4月6日(水)
9	8:40 学校集合・出席確認 8:50 学校出発	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食
10		9:00 海洋活動 (カッター漕艇) (港湾見学) (ロープ・ワーク)	9:00 科長講話
11	11:00 穴水湾自然学苑到着 11:20 入苑式 健康調査・校歌練習		10:00 研修レポート作成
12	12:00 昼食	12:00 昼食(~13:00)	11:10 感謝の清掃 11:35 点検 11:50 退苑式 12:00 昼食
13	13:00 オリエンテーション	13:20 海洋活動 (カッター漕艇) (港湾見学) (ロープ・ワーク) (カッターレース)	12:50 穴水湾自然学苑出発
14	13:40 海洋活動説明		
15	14:40 校長講話		15:00 学校到着 解散
16	15:40 室長・艇長ガイダンス		
17	夕べの集い 入浴(~19:10)	16:40 夕べの集い 入浴(~19:10)	
18	18:00 夕食(~19:00)	18:00 夕食(~19:00)	
19			
20	19:30 クラスミーティング (自己紹介) (学生生活ガイダンス)	19:30 学年ミーティング (校歌練習) (仲間づくりの集い)	
21			
22			
23	22:50 点呼・点検 23:00 消灯	22:50 点呼・点検 23:00 消灯	

(出典 「学生便覧 2005」 P.74)

## 平成 17 年度第 3 学年研修日程

	7月19日(火)	7月20日(水)	7月21日(木)	7月22日(金)
9	8:40 学校集合・出席確認 8:50 学校出発	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食	6:30 起床 6:50 点呼 7:00 朝の集い 7:20 清掃 7:50 朝食 8:50 奉仕活動
10		9:00 海洋活動 (帆走)  陸上野外活動 (ウォーキング)	9:00 海洋活動 (遠漕)	10:20 研修レポート作成
11	11:00 穴水湾自然学苑到着  11:20 入苑式 健康調査			11:20 感謝の清掃 11:40 点検 11:50 退苑式
12	12:00 昼食	12:00 昼食(~13:00)	12:00 昼食	12:00 昼食
13	13:00 オリエンテーション 13:30 校長講話	13:20 海洋活動 (帆走)  陸上野外活動 (ウォーキング)		12:50 穴水湾自然学苑出発
14				
15	14:40 海洋活動等説明 15:40 室長・艇長ガイダンス			15:00 学校到着 解散
16				
17	夕べの集い 入浴(~19:10)	夕べの集い 入浴(~19:10)	夕べの集い 入浴(~19:10)	
18	18:00 夕食(~19:00)	18:00 夕食(~19:00)	18:00 夕食(~19:00)	
19				
20	19:30 歴史講話	19:30 クラスミーティング	19:30 グループ活動 (遠漕反省会)	
21				
22				
23	22:50 点呼・点検 23:00 消灯	22:50 点呼・点検 23:00 消灯	22:50 点呼・点検 23:00 消灯	

(出典 「学生便覧 2005」 P.75)

### 平成 17 年度第 5 学年研修日程

	7月12日(火)	7月13日(水)	7月14日(木)	7月15日(金)
		6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食	6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食	6:30起床 6:50点呼 7:00朝の集い 7:20清掃 7:50朝食
9	8:40学校集合・出席確認 8:50学校出発	9:00 海洋活動 (帆走)	9:00 海洋活動 (帆走)	8:50 グループ討議発表
10				10:20 研修レポート作成
11	11:00穴水湾自然学苑到着 11:20入苑式 健康調査			11:20感謝の清掃 11:40点検 11:50卒苑式
12	12:00昼食	12:00 昼食(~13:00)	12:00 昼食(~13:00)	12:00昼食
13	13:00 オリエンテーション 13:30 校長講話	13:20 海洋活動 (帆走)	13:20 海洋活動 (帆走)	12:50穴水湾自然学苑出発
14				
15	14:40 海洋活動説明			15:00学校到着 解散
16	15:40 室長・艇長ガイダンス			
17	16:40夕べの集い 入浴(~19:10)	夕べの集い 入浴(~19:10)	夕べの集い 入浴(~19:10)	
18	18:00夕食(~19:00)	18:00夕食(~19:00)	18:00夕食(~19:00)	
19				
20	19:30 グループ討議説明 19:55 グループ長ガイダンス 20:20 グループ討議(1)	19:30 グループ討議(2)	19:30 グループ討議(3)	
21				
22				
23	22:50点呼・点検 23:00消灯	22:50点呼・点検 23:00消灯	22:50点呼・点検 23:00消灯	

( 出典 「学生便覧 2005」 P.76 )

(資料5 - 4 - - 4)

「『心の教育』について」

# 「心の教育」について

---

## 1 日一感動運動への取組

平成17年4月

金沢工業高等専門学校  
校長 堀岡雅清

## 1 . 取組の経緯

---

本校は、平成9年から「心の教育」として毎年各学年単位で、近隣の道路、公園の清掃奉仕活動を実施してまいりました。現在、その回数は40回に及んでおり、地域の皆様にも知られているところです。

近年、若者の「心の問題」が社会問題化されており、本校では平成16年11月より「1日一感動運動」への取組を試行し、概ね期待していた効果の道筋を見出すことが出来たので、平成17年4月より全校学生への展開を図ることに致しました。

## 2 . 1日一感動運動とは

---

1日一感動運動とは、毎日の学生生活を充実させるために、1日に少なくとも一回の感動を体験する、あるいは善いことを実行し、それを所定の用紙に記録し継続するものです。

この取組の趣旨は、本校学生の「知性、感性、徳性」の涵養を目的とし、感謝と奉仕の心を育むことを目指しています。さらに、本学園の建学綱領の最上位に掲げてある「人間形成」を図る具体の取組の一つであり、本学園の信条(KIT-IDEALS)を意識付けるものとして取り組んでいます。

(出典 小冊子「心の教育について」抜粋)

観点5 - 4 - 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点にかかる状況)

- ・生活指導面においては、クラス担任がこれを担当します。一方、学則上問題となる行為が認められた時は、学生主事及び厚生補導委員会において対処することとしています。また、課外活動については、すべての部活動の顧問を教員が担当し、活性化に努力しています。こうした教員の積極的な係わりにより人間教育の充実を目指しています。(資料5 - 4 - - 1「部活動の支援体制」)
- ・部活動の顧問は、原則として主副の2名の教員を置いています。その割り当ては、校長が学生主事の協力のもと、可能な限り当該の部に興味・関心・経験のある教員を選んでいます。本人の内諾を得た後、学務会議を経て決定されます。
- ・クラブ活動のコーチについては、学生の希望にもとづいて配置しています。
- ・採用方針としては、本校の理念や目標を理解し、学生を大切に指導してくれる人材を選んでいます。コーチには、週あたり3回程度の指導をお願いしています。

(資料5 - 4 - - 1)

「部活動の支援体制」

部	顧問 (*は主任)	監督	コーチ
陸上競技部	金光 学		
バレーボール部	半田 敬*・佐藤 守		
バスケットボール部	大慶 清		
ソフトテニス部	松井 洋*・大崎富雄		
テニス部	堀 隆一*・氏家亮子		丸田豊司
野球部(上級生)	村本 紘	粟 正治	
野球部(下級生)	土地邦生*・中沢政幸	西野雅昭	
サッカー部	佐伯昭彦*・下谷俊昭		熊谷健吾・高木由典
卓球部	南出章幸*・表 義憲		
バドミントン部	作宮和泉*・今澤明男		前田正志
水泳部	川崎順治*・中川秀敏		
剣道部	村田俊也		
柔道部	杉森 勝*・青木敏彦		
ラグビー部	香林利男		
スキー部	榑原東一郎*・大原しのぶ		池田彰二
吹奏楽部	壽時 廣*・坂倉忠和・山田弘文		米森信夫
放送・無線部	林 孝広		
電子計算機部	田村景明		
写真部	天日三知夫*・直江伸至		
美術部	陳 ウイ		
ハンズオン部	古屋栄彦		
将棋部	石黒泰治		大井茂一
華道講座	原 孝美		金田恍幽

(分析結果とその根拠理由)

- ・教員と学生が授業以外の活動の場で触れ合うことは、教員にとっては学生の違う側面を発見し、学生にとっても教員の違う側面を見ることのできる大切な機会であると考えています。教室を離れて学生と教員が話し合う場を持つことに繋がっている課外活動における部活動の顧問制度は、適切な取り組みであると考えています。(資料5 - 4 - - 2「部活動の実績」)
- ・クラス担任は、毎朝実施するショートホームにおいて学生の状況把握に努めています。生活の乱れは、遅刻や欠席に繋がることが多く、保護者との連携による適切な対応に努めています。

(資料5 - 4 - - 2)

「部活動の実績」

平成11 年度	<p>第34回北陸地区高専体育大会 〔団体の部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道(男子)：優勝</li> <li>・バドミントン(男子)：2位</li> <li>〔個人の部〕</li> <li>・剣道(男子)：優勝、3位</li> <li>・柔道・90kg超級：3位</li> <li>・水泳(男子)：400m自由形(優勝)、800m自由形(優勝)、200mバタフライ(2位)、200m自由形(2位)、400m自由形(2位)、400mメドレーリレー(2位)、400mリレー(3位)、100mバタフライ(3位)、200m個人メドレー(3位)、200m自由形(3位)、800m自由形(3位)</li> </ul> <p>第34回全国高専体育大会 〔個人の部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道(男子)：3位</li> <li>・水泳(男子)：800m自由形(10位)</li> </ul>
平成12 年度	<p>第35回北陸地区高専体育大会 〔団体の部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール(男子)：優勝</li> <li>・バレーボール(男子)：3位</li> <li>・剣道(男子)：優勝、2位、3位</li> <li>〔個人の部〕</li> <li>・ソフトテニス(個人)：2位</li> <li>・水泳(男子個人)：200mバタフライ(優勝)、800m自由形(優勝)、200m個人メドレー(2位)、200mバタフライ(2位)、</li> </ul> <p>第35回全国高専体育大会 ・剣道(男子団体)：2位</p> <p>第36回北陸地区高専体育大会 〔団体の部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール(男子)：優勝</li> <li>・水泳(男子)：3位</li> <li>〔個人の部〕</li> <li>・剣道(男子)：優勝、2位</li> <li>・陸上(男子)：1500m(3位)</li> <li>・水泳(男子)：200mバタフライ(優勝)、200mバタフライ(2位)、100m背泳ぎ(3位)、200m個人メドレー(3位)</li> </ul> <p>第36回全国高専体育大会 ・バスケットボール(男子団体)：3位</p>
平成13 年度	<p>第36回北陸地区高専体育大会 〔団体の部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボール(男子)：優勝</li> <li>・水泳(男子)：3位</li> <li>〔個人の部〕</li> <li>・剣道(男子)：優勝、2位</li> <li>・陸上(男子)：1500m(3位)</li> <li>・水泳(男子)：200mバタフライ(優勝)、200mバタフライ(2位)、100m背泳ぎ(3位)、200m個人メドレー(3位)</li> </ul> <p>第36回全国高専体育大会 ・バスケットボール(男子団体)：3位</p>
平成14 年度	<p>第37回北陸地区高専体育大会 〔団体の部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道(男子)：優勝</li> <li>・水泳(男子)：200mメドレー(2位)、200mバタフライ(2位)、200mメドレー(3位)</li> </ul> <p>第37回全国高専体育大会 ・剣道(男子団体)：3位</p>
平成15 年度	<p>第38回北陸地区高専体育大会 〔団体の部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道(男子)：優勝</li> <li>・バドミントン(男子)：3位</li> <li>〔個人の部〕</li> <li>・剣道(男子)：優勝、3位</li> <li>・水泳(男子)：50m自由形(優勝)、100m自由形(2位)、男子400mメドレーリレー(3位)、200m背泳ぎ(3位)</li> </ul> <p>第38回全国高専体育大会 ・剣道(男子団体)：2位</p>
平成16 年度	<p>第39回北陸地区高専体育大会 〔団体の部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道(男子)：優勝</li> <li>・水泳(男子)：100mバタフライ(優勝)、200mバタフライ(優勝)</li> </ul> <p>第39回全国高専体育大会 ・剣道(男子団体)：3位</p> <p>石川県冬季国体予選 ・スキー(男子)：アルペン(6位)</p> <p>第40回全国将棋選手権大会石川県大会 ・団体3位</p>

## (専攻科課程)

該当ありません。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

- ・教員と学生間のコミュニケーションが非常に緊密に行われていると認識しています。
- ・本校の教育実践目標の具現化を図るために、体系化した教育課程の編成、教育目的に即した授業形態、人間力の養成等に教職員が一丸となって取り組んでいます。

## (改善を要する点)

- ・教員の負担が大きいことにありますが、教員としての「使命」と認識し、教職員間の協力体制の充実によって乗り越えていきたいと考えています。

## (3) 基準 5 の自己評価の概要

授業科目は、学年ごとに教育実践目標にあわせ適切に配置され、内容も体系的に整備されていると考えています。特に、「創造実験」とそれに続く「卒業研究」を 1～5 年次までカリキュラムに組み込み、工夫したものとしています。授業の内容は、教育実践目標を達成するために計画されており、全体として教育課程編成の趣旨に沿ったものと考えています。また、これまで学生の活用が十分ではないとの認識から、学習支援計画書(シラバス)への転換を図り、シラバスの充実を目指しています。

各授業科目において必要に応じて講義と演習を組み合わせているほか、英語教育や創造教育における少人数教育が実施され、各授業科目の授業形態がその目標を十分実現できるように工夫しています。また、情報機器の利用など、教育内容に応じて学生の授業への意欲の増進を図る工夫を行っています。創造性を育む教育方法としては、「創造実験」(「ハンズオン教育」)が一般科目と専門科目の連携を図りつつ低学年から体系的に構成されており、4 年次に行うインターンシップは、ほとんどの学生が参加し、企業現場を経験する場として活用されています。

規程(資料 5 - 3 - 1「学習指導に関する実施規程」)が定められ、成績評価や進級、卒業認定に関する基準として、その内容が学生便覧に掲載されているとともに、各科目の成績評価方法は学習支援計画書(シラバス)に明記されています。これらは、年度はじめのオリエンテーションなどで説明し、学生に周知されています。単位認定、進級、卒業認定は基準に従って学務会議で審議されており、成績評価は学習支援計画書(シラバス)に記載された評価方法に従って、適切に実施されています。

教育目標の一つである「人間力の養成」のため、特別活動は 1～5 年次に毎週 1 回行われています。本校の特色ある教育として、「穴水湾自然学苑教育」が実施されており、教育課程内の学科目として、人間の素養の涵養がなされるよう配慮しています。また、学生の生活面での指導はクラス担任が、課外活動面での指導はクラブ担当顧問教員が中心になって行っており、これらの指導を通して、人間の素養の涵養を図る努力がなされています。

以上のとおり、教育課程の編成状況、その内容及び水準、授業形態、学習指導法等、及び成績評価や卒業認定等の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。